作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	堀田洋之
所属機関名	工学部建築学科
職位	教授
在籍年	4 年

教育の責任

学科の専門教育において、構造分野の教育（1・2 年次の構造力学Ⅰ～Ⅲ，構造力学演習，3 年次の建築基礎構造，構造材料実験，4 年次の特別研究等）を担当している。

教育の理念

問題意識を持って自ら考え、実行に移す習慣・能力を身につけてほしい。大学での学び・研究はそのための訓練であり、専門知識・技能を身につけることは手段であって目的ではない。

教育の方法・方針

理論と実践の両方を身につける（理解し、実行・応用・表現する）ことが重要と考えるため、授業は以下のような方法で進めている。

- 構造体や地盤に生ずる現象・挙動について、なぜそうなるのか、その理論的裏付けや法則性について説明する。
- 基本的な例題について、その解き方を説明する。
- 例題を踏まえた復習課題を課し、次の授業時に提出させる。
- 提出された復習課題を採点し、次の次の授業の最初に解答例と共に返却・解説する。

ゼミでの卒業研究指導においては、各自が最近の研究動向を調査し、自らの興味・関心に基づき実行可能なテーマを設定して、課題解決の手段を考えた上で取り組むようにしている。

教育の成果

授業の課題に自ら取り組んだ学生は、理解を深め、応用力・表現力を養うことができた（毎回の提出課題，期末試験等より）。授業アンケートの結果は概ね好評である。

卒業研究においても、自ら考えてテーマ設定・手段検討・実行・課題解決を行うかたちが曲がりなりにもできつつある。

今後の目標

受講生が上記理念に共感を持って参加できるような授業を目指し、自主的な卒業研究に結びついていくような流れを実現したい。

根拠資料

- 建築学科の教育目的・DP
- シラバス，講義スライド，配付資料，復習課題及び解答例，期末試験，授業アンケート結果
- ゼミ担当学生の卒業論文